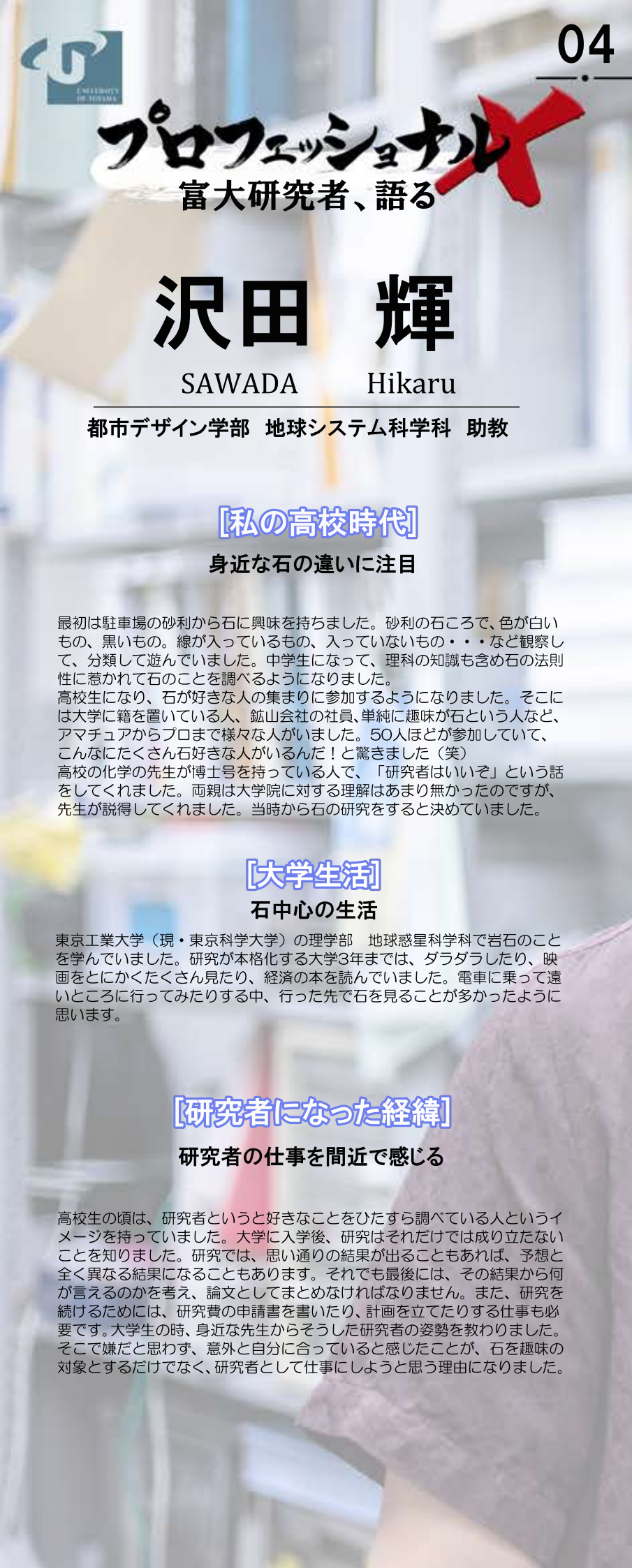




プロフェッショナルX

富大研究者、語る

沢田 輝

SAWADA Hikaru

都市デザイン学部 地球システム科学科 助教

【私の高校時代】

身近な石の違いに注目

最初は駐車場の砂利から石に興味を持ちました。砂利の石ころで、色が白いもの、黒いもの。線が入っているもの、入っていないもの・・・など観察して、分類して遊んでいました。中学生になって、理科の知識も含め石の法則性に惹かれて石のことを調べるようになりました。

高校生になり、石が好きな人の集まりに参加するようになりました。そこには大学に籍を置いている人、鉱山会社の社員、単純に興味か石という人など、アマチュアからプロまで様々な人がいました。50人ほどが参加していて、こんなにたくさん石好きな人がいるんだ！と驚きました（笑）

高校の化学の先生が博士号を持っている人で、「研究者はいいぞ」という話をしてくれました。両親は大学院に対する理解はあまり無かったのですが、先生が説得してくれました。当時から石の研究をすると決めていました。

【大学生活】

石中心の生活

東京工業大学（現・東京科学大学）の理学部 地球惑星科学科で岩石のことを学んでいました。研究が本格化する大学3年までは、タラタラしたり、映画をとにかくたくさん見たり、経済の本を読んでいました。電車に乗って遠いところに行ってみたりする中、行った先で石を見ることが多かったように思います。

【研究者になった経緯】

研究者の仕事の間近で感じる

高校生の頃は、研究者というと好きなことをひたすら調べている人というイメージを持っていました。大学に入学後、研究はそれだけでは成り立たないことを知りました。研究では、思い通りの結果が出ることもあれば、予想と全く異なる結果になることもあります。それでも最後には、その結果から何が言えるのかを考え、論文としてまとめなければなりません。また、研究を続けるためには、研究費の申請書を書いたり、計画を立てたりする仕事も必要です。大学生の時、身近な先生からそうした研究者の姿勢を教わりました。そこで嫌だと思わず、意外と自分に合っていると感じたことが、石を趣味の対象とするだけでなく、研究者として仕事にしようと思う理由になりました。



高校生へのメッセージ

地球科学は理系学問でも謎の多い分野で、扱うテーマも日常の感覚からすると壮大です。まちづくりや防災から不思議な色・形の石まで、一見関係なさそうなものが全て結びついています。複雑で困難な問題へ向き合う「謎耐性」を身に付けてほしいと思います。解けなさそうな問題を解くための努力によって少しずつ視野が広がり、雑然とした世界に対して自分の知識に基づく整理ができるようになるでしょう。

ラボ 潜入



ジンバブエの現地調査

2015年 修士2年の学生のときにジンバブエの現地調査に参加しました。現地の地質学者と議論しています。



巨大なガーネット結晶

2022年、富大着任前にグリーンランドで調査を行いました。赤い巨大なガーネット結晶を発見しました。



海外の研究所と共同研究

2025年ドイツ地研究センターとの共同研究で鉱物中の高精度同位体分析のために二次イオン質量分析器を使いに行きました。



学生と現地調査

2026年4月、研究室所属の学生らとともに四国の山に登り、地質調査をしました。良い石を得るため、良い研究のため、富山だけでなく全国各地へ出かけています。

Profile

1991年、東京都生まれ。早稲田高等学校出身。

東京工業大学 理学部 地球惑星科学科卒業。東京工業大学 大学院 理工学研究科 地球惑星科学専攻 修士課程修了。東京大学 総合文化研究科 広域科学専攻 博士課程修了。

2023年6月より富山大学都市デザイン学部地球システム科学科助教として着任。富山の生活は、車で行動範囲が広がり、鉱物採集に出かけやすくなって快適。

現在の研究テーマ：蛇紋岩・ペグマタイト

キーワード：岩石学・鉱物学・地質学/地殻進化・沈み込み帯・地球史

担当講義：地球物質科学、地史学、一般地質学、岩石鉱物学実習Ⅱ、野外実習Ⅱ

所属学会：日本惑星科学連合、日本地質学会、日本鉱物科学会、資源地質学会